

「家庭医療学と社会学の立場から～在宅医療における生活理解の重要性～」
- 第102回 徳島県立中央病院 地域医療連携講演会 -

主催: 徳島県立中央病院、徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部榎田研究室

徳島大学(学長裁量経費「在宅医療の実際と患者家族の関わり方-訪問診療による家庭の「医療化」を患者家族はどう乗り越えているか」)

共催: 徳島大学総合科学部(学部長裁量経費「地域医療の近未来:社会学と医学の2つの立場から在宅医療を考える」)

後援: 徳島県医師会、徳島県看護協会

- ❖ 開催日時 : 2011年2月17日(木)19時～21時半
- ❖ 開催場所 : 徳島県立中央病院 厚生棟3階会議室
- ❖ 会 費 : 無 料

スケジュール 司会: 寺嶋 吉保(徳島県立中央病院臨床腫瘍科部長)

19:00～19:05 開会の挨拶(地域医療センター長 稲井 徹)

19:05～20:05 第一講演「在宅診療における生活の論理の重要性-家庭医療学の立場から-」

演者: 若林 英樹氏(岐阜大学医学部医学教育開発研究センター)

【要旨】高度に発達した現代医学は、長寿という恩恵と共に、病気や障害を持ちながらも安心して暮らしたいという患者・家族のニーズを生み出している。

通院困難となったときや、末期疾患で病院でできる治療がなくなったとき、在宅医療が重要な役割を果たすことが多い。そこで、患者を支える主体は、生活の場である地域と家族にシフトする。本講演では在宅医療における家族志向のケア、すなわち、患者をとりまく地域と家族を包括的にとらえる家庭医療学のアプローチ、その工夫や挑戦についてお伝えします。

20:05～20:30 第二講演「患者が作り出す“医療”-医療イノベーターとしての療養者と療養者家族-」

演者: 榎田 美雄(徳島大学大学院 SAS 研究部=社会学=)

【要旨】「患者中心の医療」という言い方の不徹底さを問いたい。「患者中心の医療」という言い方では、配慮と判断の主体は医療者のままで、適切な医療とは何か、という実践判断の基準は、結局医療者側が所有してしまっている。それでいいのか？星野晋(2006:80)の図が参考になる。星野(山口大学医学部)は、「患者中心の医療」に「生活者中心のヘルス・ケア」を対置する。この対比は有用だ。EBM的な平均化された病気認識ではなく、個別の生活をもつ「生活者」による病気認識が尊重されなければならない。「生活者」の価値尺度で実践を判断することが肯定されてよいはずだ。そのように考えるならば、「医療からの逸脱」として医療関係者にはみえなかったものが、「医療のイノベーション」として見えてくることになる。いくつかの事例を挙げながら、「患者が作り出す“医療”」という主張をしていきたい。文献: 斉藤・榎田 2011「医療化する家庭・家庭化する医療」『社会科学研究』24号ほか(配布予定)。

20:30～21:00 第三講演「なぜ認知症の早期発見は遅れるか？-介護家族への聞き取り調査から-」

演者: 木下 衆氏(京都大学大学院=社会学=)

【要旨】認知症の医学的診断技術は発達しているが、一方で、そもそも患者が受診しなければ、その技術も役には立たない。そして認知症の場合、患者本人以外の人物、特に家族の気づきが、受診のきっかけとして重要になる。しかし家族の気づきは、往々にして遅れがちになる。家族は高齢者の「異変」を、本人の性格や老化現象、ライフイベントに結び付けて解釈し、なかなかそれを認知症の症状と捉えないからだ。高齢者本人の些細な異変に気付くためには、高齢者個人の生活に対するさまざまな情報が必要となる。しかし家族の気づき(の遅れ)のプロセスに注目すると、多くの情報を持っているがゆえに、彼/彼女らの異変を「病気の症状」に結び付けなくても、いくらでも説明できてしまうという逆説が指摘できる。医学的診断技術だけでなく、家族の気づきにより注目することの重要性、そして、早期発見できなかった家族が、自らを責めないようにすることの重要性を、さまざまな分野で共有する必要があるのではないかと。

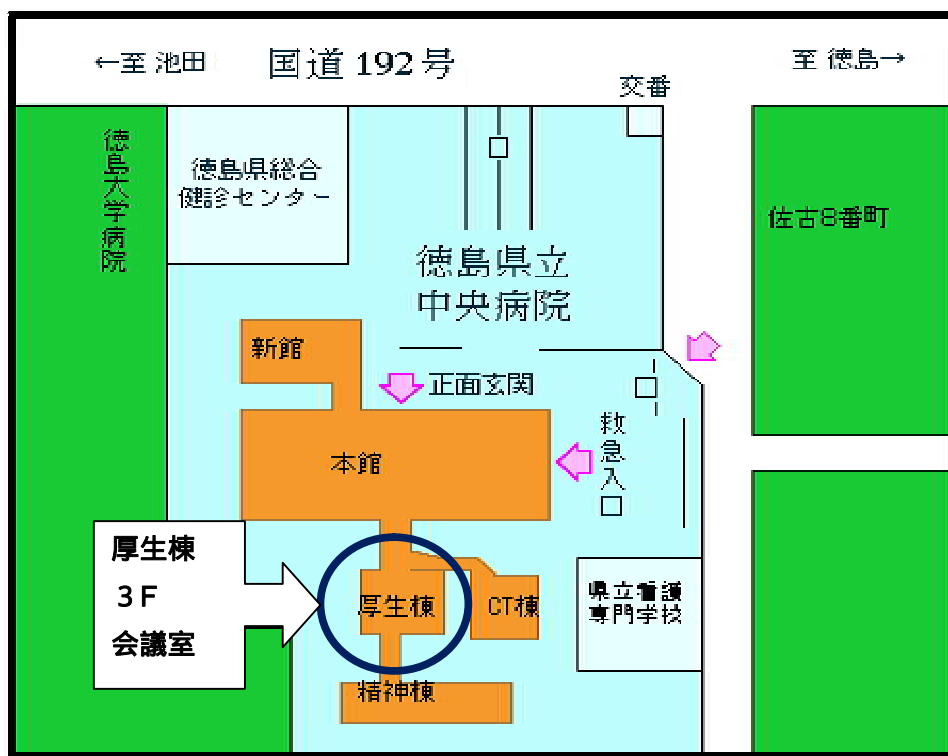
21:00～21:20 「患者家族の立場から:各報告へのコメント」&総括討論

ゲスト: 内藤 浩次氏(患者家族)

21:20～21:30 閉会の挨拶(徳島市医師会 在宅医療連携委員会委員長 豊田 健二氏)

(医療法人豊山会 豊田内科院長)

徳島県立中央病院 （救急入口側の通用門からお入りください）



徳島県徳島市蔵本町 1 丁目 10-3	
JR	徳島本線蔵本駅下車、徒歩 3 分
バス	徳島市営バス 徳島駅前、市バス 1 番乗り場：上鮎喰・地藏院方面行き または 徳島バス 徳島駅前、徳バス 4 番乗り場：石井・鴨島方面行きにて 徳島駅より約 15 分、中央病院前下車、徒歩約 1 分
自家用車	徳島自動車道：藍住 IC より県道 1 号線経由、7 km、約 15 分 駐車場：約 280 台

問い合わせ & 連絡先

徳島県立中央病院 地域医療センター 片岡・中西・豊野・有馬

TEL 088-631-7151 FAX 088-633-3519 E-mail : chiiki@tph.gr.jp

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部所属（総合科学部併任）准教授 榎田美雄

TEL 088-656-9512 E-mail : kashida@ias.tokushima-u.ac.jp

研究のための録音、録画、撮影があることを予めご了承ください。